【普通科】　３年次　【選択】科目　「古典Ｂ（分割２）」授業のシラバス

１　概要

教科名	国語	科目名	古典Ｂ（分割２）	単位数（コマ数）	２単位（７０コマ）
科目の目標	古典としての古文・漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を身につける。				
教科書（出版社）	精選古典Ｂ【改訂版】（三省堂）	副教材（出版社）	体系古典文法（数研出版） 重要古典単語［三訂版］（桐原書店） 漢文基本ノート（浜島書店） ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店） ※古語辞典、漢語辞典、電子辞書もあるとよい。		

２　学習の方法

⑴　予習について

基本的に毎時間、授業の始めに小テストを実施します。内容は古文単語、古典文法、漢文句法などです。予め小テストの内容、範囲を伝えますので、必ず予習しましょう。また、新たな単元に入る際には、本文をノートに書き写したり、単語の意味を調べたりするなどの予習が必要となります。２年次になってからは、１年次に学習した事項を土台として授業が進みます。本文を事前に読んで、「忘れていること」「理解が足りないこと」を見つけたら、副教材を活用して確認する姿勢が、学力を高める結果につながります。

⑵　授業について

古典では使用する副教材も多いので、忘れ物をしないようにしましょう。また、グループワーク等も行います。積極的な姿勢で授業に臨みましょう。予習で本文に触れたとき、自学自習では解決できなかった疑問点は、ここでグループの仲間、先生に意欲的に質問して解決してください。また、友人が分からないことは、教えてあげることで自分の理解も深まり、学力を定着できます。このとき、電子辞書や「古語辞典」「漢語辞典」を用意すると、一段深い調べ学習でグループに貢献できます。受験で古典が必要な生徒は、辞書が学習に必須ですので、特に推奨します。

⑶　復習について

授業で学習したことをその日のうちに復習しましょう。授業で学習した本文の内容（口語訳、書き下し文）を確認するとともに、単語や文法、句法については重点的に復習するようにしましょう。その際、『体系古典文法』、『重要古典単語』、『漢文基本ノート』『国語便覧』といった副教材を参照して復習することで、より理解が深まります。予習や授業で見つけた疑問点とその答えをまとめ、さらに浮かんだ疑問があれば積極的にその後の授業や学校生活で先生、グループメンバーに質問し、学びを深めましょう。

〈学習アドバイス〉

古典の成績を上げる一番の近道は「古典を好きになること」です。ではどうやって好きになるかというと、方法は二つあります。

一つは、「古典を使う意識で読むこと」。昔の話ではなく、今起きていることと思って読むと、古典のテーマには身近なものが多いことに気付きます。家族や友情、恋愛など人間関係のヒント、政治や軍事、仕事の成功・失敗例、人生観や死生観などは、役に立つから文章として今日まで残ってきたのです。古典は使うもの、役立てるものと思って読めば、好きな文章に出会えるはずです。

もう一つは、「たった一つの好きな古典を探すこと」。音楽にしろ、絵画にしろ、芸術には好き嫌いがあって、音楽好きという人にも苦手な音楽は存在します。古典の文章も同じです。高校時代に古典に触れることは、たった一つ「グッと来る古典」に出会うためのチャンスです。人間関係とも似ていますね。ただし、ひとまず理解する努力は必須です。頭ごなしに拒否しないで、苦手な文章との出会いも、「自分の苦手を教えてくれた」と出会いに感謝して前向きに学習しましょう。

３　評価について

⑴　評価の観点

観　点	趣旨
①　関心・意欲・態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしているか。（授業や提出物に対する取り組み姿勢を評価します。）
②　読む能力	古典の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているか。（古典の文章を的確に読み取り、筆者の主張を読み取ることができているかを評価します。）
③　知識・理解	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているか。（単語、文法、句法などの基礎知識が身に付いているかを評価します。）

⑵　評価の方法（以下観点①～③は「⑴　評価の観点」と対応する）

観点＼評価材料	割合	定期考査・確認テスト 実力テスト		小テスト	授業ノート	レポート等	休業中の課題	授業の課題	グループワーク
①　関心・意欲・態度	２０％			○	◎	◎	◎	◎	○
②　読む能力	４０％	◎	学習の状況に応じて、授業で学習した文章の他に、初見文を出題することがあります。		○	○	○	○	○
③　知識・理解	４０％	◎	『体系古典文法』、『重要古典単語』、『漢文基本ノート』から範囲を指定して出題することがあります。	◎		○	○	○	○

〈担当者からのメッセージ〉

忘れ物をしないこと、提出物は期限を厳守することが大切です。ノートやワークシートを提出する際は授業の中で説明をしますので、しっかり聞いて確認しましょう。教科書やプリントなどの教材を紛失しないようにきちんと管理することも心がけてください。

学習の基本は授業です。定期考査・休業明けテストに勉強して臨むことは言うまでもないことですが、授業の予習・復習のサイクルを確立させることが何より大切です。特に古典は予習をすることで授業の理解度が大きく変わる科目です。授業で新しい単元に入ったら、事前に古文単語を調べて、自分で古文を訳して読んでみることが大切です。そして、古典文法などの覚えるべき文法事項が授業の中で出てきたら、自宅に帰って復習しましょう。古典は、知識が定着してくると爆発的にできることが増えて面白くなります。

皆さんと一緒に学習していくことをとても楽しみにしています。一緒に頑張って学習していきましょう。

【普通科】　３年次　【選択】科目　「古典Ｂ（分割２）」授業のシラバス

４　授業計画

月	単元	時数	学習内容	観点別評価	到達目標	考査等
前期 4				①	（年間を通じて授業内容に関心を持ち、意欲的に取り組み、参加する姿勢を持つことができる。）	小テスト
	随筆	7	これまでに学習した古文知識を総復習し、随筆を読み味わう。	②	時代背景を踏まえながら、随筆を読み味わうことができる。	
				②	これまでに学習した古文知識を活用して随筆を読み味わうことができる。	
5				③	古文知識を総復習し、定着させることができる。	
	史伝（一）	7	これまでに学習した漢文知識を総復習しながら、三国志の世界を読み取る。	②	中国古代の歴史的背景を踏まえながら、三国志の史実が表された本文を読み取ることができる。	
				②	これまでに学習した漢文知識を活用して本文を読み取ることができる。	前期中間考査
6				③	漢文知識を総復習し、定着させることができる。	小テスト
	物語（一）	7	日本の物語文学について学び、その代表的な作品を読み味わう。	②	日本の代表的な物語文学に触れ、読み味わうことができる。	
				②	作者についての知識を踏まえながら、そのものの見方、考え方を読み取ることができる。	
7				③	日本の物語文学について文学史的知識を身につけることができる。	
	小説	7	文章に描かれた人物、心情を表現に即して読み味わう。	②	文章に描かれた人物、心情を表現に即して読み味わうことができる。	
8				③	重要語彙を定着させるとともに、様々な句法を活用できる。	
	日記	6	日本の日記文学について学び、その代表的な作品を読み味わう。	②	日本の代表的な日記文学に触れ、読み味わうことができる。	小テスト
				②	作者についての知識を踏まえながら、そのものの見方、考え方を読み取ることができる。	前期期末考査
9				③	日本の日記文学について文学史的知識を身につけることができる。	小テスト
	史伝（二）	8	史記に描かれた様々な歴史上の人物の生き様を読み味わう。	②	これまでに学習した知識を踏まえて、歴史上の人物の生き様を読み味わうことができる。	
後期 10				③	史記の成立についての知識、中国史の知識を総復習し、定着させることができる。	
	物語	8	古文の代表的な物語のおもしろさを味わう。	②	それぞれの場面での情景描写や人物の心情を読み取ることができる。	
11				③	語彙や文法の知識を活用しながら、叙述された言葉から作者の意図する意味を把握できる。	
	評論	8	さまざまな時代の代表的な評論を読み味わう。	②	それぞれの評論の特色を学び、筆者の述べる内容を理解できる。	後期中間考査
				②	それぞれの評論の構成や展開を把握できる。	
12	思想	8	諸子百家の代表的なものである中国の思想を読み取る。	②	中国についての知識を踏まえながら、その考え方を読み取ることができる。	
				③	諸子百家について知り、儒家、道家、法家それぞれの考え方の違いを整理して理解できる。	
1	近世小説	4	近世小説の特徴や作者と作品について知り、小説のおもしろさを味わう。	②	近世小説の特色を捉え、登場人物の心情を理解し、物語を読み味わうことができる。	
				③	作者と作品について理解を深めることができる。	
2						
3						
		計 70				

※　観点別評価①は関心・意欲・態度、②は読む能力、③は知識・理解を表しています。
※　授業計画は進度により前後することがあります。